



2026年7月22日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 J S H
代表者名代表取締役会長兼社長 野口 和輝
(コード番号: 150A 東証グロース市場)
問合せ先取締役経営管理本部長 市川 伸二
(TEL 03-3272-0606)

在宅医療事業におけるAI・DX推進体制強化について

当社は、在宅医療事業における生産性向上及び収益性改善を目的として、ステーション事務業務のAI化・DXプロジェクトを本格的に推進することといたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 背景

当社の訪問看護事業では、レセプト請求、行政対応、指定申請、各種届出、利用者情報管理、加算管理など、多岐にわたる事務業務が発生しております。

今後の事業拡大においては、これらの事務業務を標準化・デジタル化し、事業所運営の効率化及び収益性の向上を実現することが重要な経営課題であると認識しております。

このため当社では、AI・DXを活用したステーション事務業務の抜本的な改革に向けたプロジェクトを推進しております。

2. 推進体制の強化

本プロジェクトの推進体制を強化するため、訪問看護事業における事務業務の専門知識及び豊富な実務経験を有する鈴木智英子の中核メンバーとして配置するとともに、AI・DXシステム開発に専門性を有する外部パートナーと連携し、プロジェクトを推進してまいります。

鈴木は、約20年にわたり、訪問看護事業におけるレセプト業務、行政対応、指定申請業務、事務オペレーションの構築・標準化・指導・監修等に携わり、全国規模で展開する事業の業務基盤整備を担ってまいりました。

現場業務に関する豊富な知見と、外部パートナーが有するAI・DX技術及びシステム開発力を融合することで、現場で実際に活用できる実効性の高いDX基盤の構築を目指してまいります。

3. 今後の取り組み

本プロジェクトでは、以下の取り組みを段階的に推進してまいります。

- ・ステーション事務業務の標準化
- ・AI・DXを活用した事務業務の自動化
- ・レセプト業務の効率化
- ・行政申請・届出業務の省力化
- ・事務オペレーションの集約及び効率化
- ・各種データの一元管理及び業務品質の向上

これらの取り組みにより、事務業務の抜本的な生産性向上を図るとともに、事業所運営に係る固定費の最適化及び収益性の向上を目指してまいります。また、拠点数の拡大においても効率的な運営が可能な事業基盤を構築し、持続的な企業価値の向上につなげてまいります。

4. 今後の見通し

本件による2027年3月期の業績に与える影響は現時点では軽微であります。本プロジェクトは当社の中長期的な収益性向上及び企業価値向上に資する重要な取り組みと位置付けております。

以上